



## メディカルクリエーションふくしま2020 開催報告



開会式の様子 小林委員長

令和2年10月16日(金)・17日(土)に、第16回目となる『メディカルクリエーション2020』が、157企業・団体のWeb出展で開催され、参加者総数3,232名でした。コロナ禍で、初めてのWeb対応でしたが、遠地よりの参加と閲覧が目立った展示会となりました。

尚、第9回目の「MCF大賞」は、株式会社システムフレンド(広島市)のモーション・ビジュアルライザー(マーカー無しで体の動きを計測装置)が選ばれました。

## 第7回サステナブル地域づくりフォーラム開催報告

当機構が主催し、日本大学工学部工学研究所が共催した「第7回サステナブル地域づくりフォーラム」は、令和2年10月24日(土)に郡山ビューホテルで開かれました。

「子育て世代を中心として考えるサステナブル地域づくり」をテーマに、約50人が参加し、大学研究者等から地域づくりに関するこれまでの取り組みや今後の展望などについて、理解を深めました。

フォーラムでは、コーディネーターである日本大学工学部土木工学科の中野和典教授の挨拶と「ロハスを学ぶ自然系教材としてのアクアポニックスの活用」をテーマに話題提供をいただきました。

次に、日本大学工学部建築学科の浦部智義教授は、「健康で行こうよ!一医・食×空間=まちづくり」を、日本大学工学部土木工学科の前島拓助教授は、「LOHASの舗装~人と環境に優しいみちづくり~」、そして、最後に医療法人仁寿会 菊池医院 菊池信太郎院長が「持続可能な子どもの生育環境の樹立を目指して~小児科診療所の取り組み~」をテーマに活動の報告と新たな取り組みについて、ご説明いただきました。

講演終了後は、今年新築された医療法人仁寿会 菊池医院を見学、講演された方々のテーマが具現化された施設であり、今後、さらに発展していく様子がうかがえました。



参加者は興味深く診療所を見学しました(菊池医院)

## ~新しい視点でエネルギーを利用する~ 第13回 新☆エネルギーコンテストに参加

日本機械学会技術と社会部門主催、日本大学工学部の共催で「第13回 新☆エネルギーコンテスト」が令和2年10月17日(土)行われ、郡山テクノポリス地域戦略的アライアンス形成会議が協賛しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、コンテスト当日はZoomにより開催され、「アライアンス形成会議賞」の審査もWeb上で投票することとなりました。

優秀なアイデアを出した学生には、RIEFふくしま2020に出展する当機構のブースで、当コンテストのアイデアをポスター展示し成果を発表するとともに、企業の皆様等と意見交換する場を設け若手研究者の育成に努めます。

## ニューメディア・コミュニティ事業推進協議会 ボードメンバー会議開催報告

令和2年10月14日(水)令和2年度第2回ボードメンバー会議がWebにより出席者14名で開催されました。主催者挨拶に引き続き議事に移り、令和2年度事業報告、事業計画について事務局より説明後、意見交換を行いました。「働き方改革セミナー」45名、「RPAオンラインセミナー」40名の参加者のもとWebで開催しました。「RPAハンズオンセミナー」については8名でINCの会議室において実施しました。事業計画については例年11月に開催してきましたハッカソンを2月に延期しWebで開催、3月春休みにロボット制作教室を予定していますが、状況により延期または中止も考慮することとしました。

なお10月より桑折直樹氏の後任として、八島道昭氏が新メンバーとして就任しました。



## 今月のコラム (技術コーディネーター 井上明博)



### 4)柔軟性の高い事業継続戦略 (参考:TRC EYEvol.279から)

東日本大震災では代替生産拠点を確保し、地域的な分散化を進めていたかどうか早期復旧の鍵となりました。しかし、事前に代替生産拠点を確保することは生産性の観点から必ずしも合理的ではないことが多い。一時的にグループ会社や同業他社に外注する戦略が考えられるが、外注先との協定締結、治工具や金型のマッチング確認、調達物流や製品物流の検討など、事前準備が必要になります。

代替戦略も合理的ではない場合は、地道に被害想定を実施して、予想される復旧時間を考慮しつつ予備部品の確保や在庫の積み増し、耐震性強化などのリスク対策を講じることになります。

### 5)演習・訓練の実施

定期的な演習・訓練はBCPの実効性を高めるだけでなく、年間の実施計画に盛り込み、演習・訓練の結果を反映させ、BCPに生かすことが重要。

### 6)サプライチェーン・リスクマネジメント(SCRM)の構築「経営者が主導し、継続的に管理する」

新型コロナウイルスの影響で、中国からの原材料や部品などの供給が中断される事態に陥りました。供給中断リスクの軽減を進めようとしている企業も多い。自社と同時に被災するサプライヤーの有無、競合他社の調達が特定のサプライヤーに集中していないかなどを調査し、代替サプライヤーの確保や部品の共通化および部品点数の削減、複数社購買などの対策を行います。

SCRMの導入目的はサプライチェーンのレジリエンスを高めるとともに、期待通りの稼働を確実にするための対策です。

リスクに強い工場をつくるために、是非、事業継続計画(BCP)から初めて見てください。

今回は【現場力の向上】について掲載致します。

